

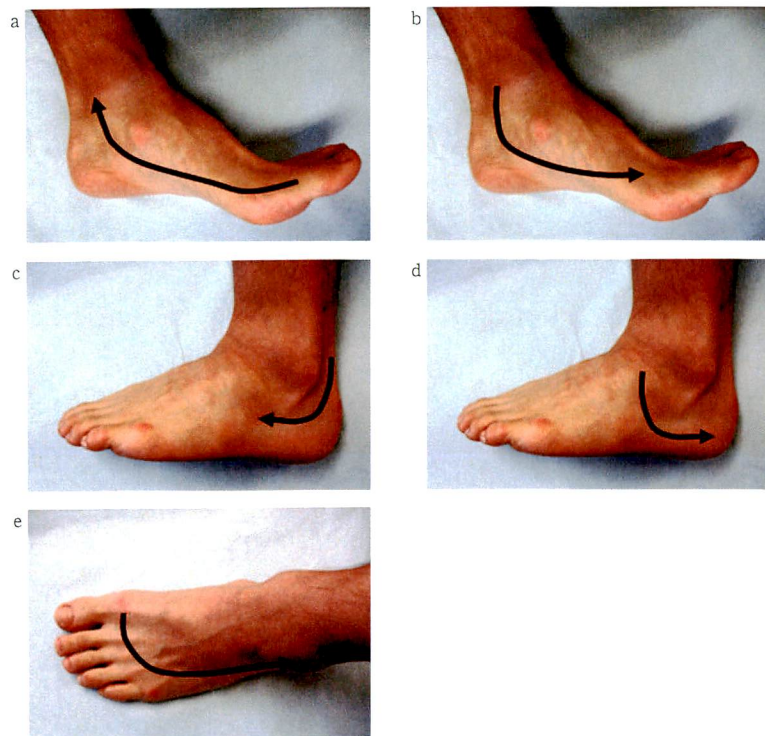
- 1 思春期の体の変化で正しいのはどれか。
- 男子では一般に11～14歳頃に発育急伸期がみられる。
 - 女子では一般に19歳頃に最終身長に達する。
 - Tanner分類1期の女子では乳頭と乳房が小さく隆起する。
 - Tanner分類3期の男子では恥毛は陰茎部に沿ってまばらに生える。
 - 男子では一般に12歳頃より声変りがみられる。
- 2 胎生16週の胎児の造血の場はどれか。
- 卵黄嚢
 - 肝 臓
 - 脾 臓
 - 骨 髄
 - 胸 腺
- 3 災害医療について正しいのはどれか。3つ選べ。
- 災害弱者には旅行者や外国人が含まれる。
 - トリアージタグの規格は統一されている。
 - 災害拠点病院は災害時の医療救護活動の中核を担う。
 - トリアージタグの識別の判断は、医師に限られる。
 - PTSDへの対応は災害医療終了後に開始し、長期間必要である。
- 4 疾患と食事の組合せで誤っているのはどれか。
- クローン病 ————— 脂肪制限食
 - 胆石症 ————— 脂肪制限食
 - 代償性肝硬変 ————— 蛋白制限食
 - 慢性膵炎 ————— 脂肪制限食
 - 慢性腎炎 ————— 蛋白制限食
- 5 寝返りはできるが、お座りのできない6か月の乳児への対応で適切なのはどれか。
- 筋電図
 - 頭部MRI
 - 理学療法
 - 経過観察
 - 脊椎エックス線撮影
- 6 正常分娩について正しいのはどれか。
- 第1回旋で矢状縫合は骨盤入口部縦径に一致する。
 - 第2回旋で小泉門は後方に回旋する。
 - 骨盤寛部で矢状縫合は第2斜径に一致する。
 - 分娩第1期の陣痛発作は10分間に5～7回である。
 - 分娩第2期に収縮輪は臍部を超える。
- 7 正しいのはどれか。
- 医師の免許取消は刑法に規定されている。
 - 堕胎の禁止は母体保護法に規定されている。
 - 司法解剖は死体解剖保存法に規定されている。
 - 診療所開設の届出は医療法に規定されている。
 - 医師が診察治療を拒む正当な事由が労働基準法に規定されている。
- 8 コンパートメント症候群の診断に最も有用な検査はどれか。
- 単純エックス線写真
 - 誘発筋電図
 - 区画内圧測定
 - 下肢動脈造影
 - 血管超音波検査
- 9 Child-Pugh分類に含まれない項目はどれか。
- 腹水の有無
 - 血清ビリルビン値
 - 血清アルブミン値
 - プロトロンビン活性値(%)
 - ICG 15分値停滞率(ICG R15)
- 10 チアノーゼをきたさないのはどれか。2つ選べ。
- 肺動静脈瘻
 - Fallot四徴症
 - 肺動脈弁狭窄症
 - 大動脈弁狭窄症
 - Eisenmenger症候群

- 11 睡眠について誤っているのはどれか。
- 睡眠過剰の原因としては睡眠時無呼吸が多い。
 - REM睡眠は、青斑核の活性化により抑制される。
 - ナルコレプシーではオレキシン濃度が過剰である。
 - ポリソムノグラフィーは、睡眠障害の評価に有用である。
 - non-REM睡眠とREM睡眠のサイクルは100分程度で繰り返す。
- 12 血清鉄低下、総鉄結合能値低下、血清フェリチン値上昇がみられる疾患はどれか。
- 悪性貧血
 - 鉄欠乏性貧血
 - 温式溶血性貧血
 - 慢性関節リウマチ
 - ヘリコバクター・ピロリ菌感染症
- 13 在宅酸素療法の保険適応基準を満たさないのはどれか。
- 安静時の動脈血酸素分圧 (PaO_2) が 50 Torr の慢性閉塞性肺疾患の症例
 - 安静時の動脈血酸素分圧 (PaO_2) が 66 Torr で運動負荷時に著しい呼吸困難を訴える肺線維症の症例
 - 平均肺動脈圧が 45mmHg の混合性結合組織病 (MCTD) の症例
 - NYHA Ⅲ度で、睡眠時にチェンストークス呼吸がみられ、無呼吸低呼吸指数が 30 回/時間の慢性心不全の症例
 - 発作的に低酸素または無酸素状態になるファロー四徴症の症例
- 14 血液生化学データと尿生化学データの両方を必要とする生体機能検査はどれか。
- ICG 試験
 - HAM 試験
 - 尿素呼吸試験
 - rapid ACTH 試験
 - クレアチニンクリアランス
- 15 便秘をきたしやすいのはどれか。2つ選べ。
- モルヒネ内服
 - Parkinson 病
 - WDHA 症候群
 - カルチノイド症候群
 - Mallory-Weiss 症候群
- 16 新生児マススクリーニング対象疾患と検査項目で正しい組み合わせはどれか。
- フェニルケトン尿症 ————— 血中ロイシン
 - 先天性副腎過形成 ————— 血中 17-OHCS
 - 先天性甲状腺機能低下症 ————— 血中 f-T_3
 - ガラクトース血症 ————— 血中ブドウ糖
 - ホモシスチン尿症 ————— 血中メチオニン
- 17 胎児付属物について正しいのはどれか。
- 2 絨毛膜 2 羊膜であれば 2 卵性双胎である。
 - 妊娠中・後期の羊水は母体血漿に由来する。
 - 前置胎盤は初産婦に多い。
 - 臍帯真結節は胎児死亡の原因とはならない。
 - 臍帯動脈血の酸素飽和度は臍帯静脈血より低い。
- 18 正しいのはどれか。2つ選べ。
- QOL (生活の質) は障害の程度で決定される。
 - 障害の大きさは環境因子と個人因子で決定される。
 - リハビリテーションは発症後しばらく経ってから開始する。
 - バリアフリーには制度的な制約を除去することも含まれる。
 - ノーマライゼーションとは障害者の障害をリハビリテーションにより軽減することである。
- 19 医原病でないのはどれか。
- 腫瘍内出血による血圧低下
 - ジギタリスによる悪心・嘔吐
 - 放射線検査による皮膚癌の発生
 - 造影剤によるアナフィラキシーショック
 - 医師の不注意な診療態度による神経症様症状

20 予防接種が有効でないのはどれか。

- a 流行性耳下腺炎
- b 水痘
- c 黄熱
- d A型肝炎
- e C型肝炎

21 Chaddock 反射を誘発する正しい方法はどれか。



22 胸部の解剖について正しいのはどれか。

- a 大胸筋は上腕骨に付着する。
- b 奇静脈は腕頭静脈に流入する。
- c 縦隔上縁は鎖骨で形成される。
- d 横隔膜の辺縁部は腱膜である。
- e 肋骨は背側で肋軟骨に移行する。

23 日本における心臓移植レシピエントの除外条件として誤っているのはどれか。2つ選べ。

- a 慢性透析
- b 悪性腫瘍
- c HIV陽性
- d 陳旧性脳梗塞
- e 年齢55歳以上

24 特殊健康診断に含まれないのはどれか。2つ選べ。

- a 健康測定
- b 特定健康診査
- c 高気圧作業健康診断
- d 電離放射線健康診断
- e 特定化学物質健康診断

25 「自分の考えが他人に知られてしまう」という発言から疑われる症状はどれか。

- a 思考吹入
- b 思考奪取
- c 考想察知
- d 考想化声
- e 思考干渉

26 声帯を外転させる筋はどれか。

- a 披裂筋
- b 甲状披裂筋
- c 輪状甲状筋
- d 後輪状披裂筋
- e 外側輪状披裂筋

27 動脈硬化を示唆する眼底所見はどれか。

- a 黄斑浮腫
- b 毛細血管瘤
- c 網膜新生血管
- d 動静脈交叉現象
- e 視神経乳頭陥凹

28 筋とその支配神経で正しい組合せはどれか。

- a 上腕二頭筋 ————— 正中神経
- b 上腕三頭筋 ————— 橈骨神経
- c 大腿四頭筋 ————— 閉鎖神経
- d 大腿二頭筋 ————— 下殿神経
- e 下腿三頭筋 ————— 深腓骨神経

29 感染症法で2類に分類されているのはどれか。

- a コレラ
- b 黄 熱
- c マラリア
- d 結 核
- e 腸管出血性大腸菌感染症

30 呼吸中枢を刺激するのはどれか。

- a 動脈血pHの低下
- b 脳脊髄液pHの上昇
- c 動脈血O₂分圧の上昇
- d 脳脊髄液O₂分圧の上昇
- e 脳脊髄液CO₂分圧の低下

31 グルカゴンについて誤っているのはどれか。

- a ペプチド性のホルモンである。
- b 主に膵臓のβ細胞で合成される。
- c 肝臓における糖新生を促進する。
- d Gタンパク質共役型の受容体を持つ。
- e 血糖レベルが低下すると分泌される。

32 がん抑制遺伝子はどれか。

- a RB1
- b BCL2
- c HRAS
- d N-myc (MYCN)
- e c-abl (ABL1)

33 寝たきりになる原因として最も多いのはどれか。

- a 認知症
- b 糖尿病
- c 転倒骨折
- d 悪性新生物
- e 急性心筋梗塞

34 PCR法による抗酸菌の検出について正しくないのはどれか。

- a 検出感度が高い。
- b 偽陽性がでない。
- c 短時間で検出可能である。
- d 治療効果の判定には原則使用しない。
- e 結核菌と非結核性抗酸菌の鑑別ができる。

35 交感神経β受容体遮断薬の適応でないのはどれか。

- a 異型狭心症
- b うっ血性心不全
- c 本態性高血圧症
- d 発作性心房細動
- e 褐色細胞腫手術時

36 正しいのはどれか

- a マラリアによる死亡はアジアで最も多い。
- b うつ病は世界的には主要な健康問題ではない。
- c 肺結核症の新規患者数は世界的に減少しつつある。
- d AIDSの流行で世界全体の平均寿命は短縮している。
- e 開発途上国の感染性下痢症では経口補液が推奨されている。

37 誤っている組合せはどれか。

- a 鉛 ————— 貧 血
- b クロム ————— 肺 癌
- c 砒 素 ————— 膀胱癌
- d 有機水銀 ————— 協同運動失調
- e アスベスト ————— 悪性中皮腫

38 Leopold 診察法の結果を示す。

第1段：胎児頭部に触れる。

第2段：胎児の背部を母体の左側に触れる。

第3、4段：胎児下向部は骨盤内に進入している。

この児の胎位・胎向はどれか。

- a 頭位第1胎向
- b 頭位第2胎向
- c 骨盤位第1胎向
- d 骨盤位第2胎向
- e 横 位

39 産業医について正しいのはどれか。

- a 都道府県労働局長が認定する。
- b 作業場の環境測定を行う。
- c 月に一度以上職場巡視を行う。
- d 労働基準法に規定されている。
- e 労働者300人以上の事業所では専任の産業医を置く。

40 開心術後ICUに入室し、ドレーンからの出血もなく順調に経過していた患者が、入室後5時間で中心静脈圧の増加と脈圧の減少を伴う血圧低下が生じた。

考えられる病態はどれか。

- a 気 胸
- b 肺梗塞
- c 脳梗塞
- d 冠不全
- e 心タンポナーデ

41 生後1か月の乳児。発熱を主訴に来院した。機嫌が悪く、哺乳量も少ない。体温38.6℃。呼吸数46/分。心拍数128/分、整。胸腹部に異常を認めない。発疹を認めない。大泉門の膨隆を認めない。

家族に対する説明として適切なのはどれか。

- a 「乳児はよく熱を出すので心配は要りません。」
- b 「入院して検査と治療をしましょう。」
- c 「水分を十分に与えて、身体を冷やして様子をみてください。」
- d 「解熱剤を投与して熱が下がらないようなら、また受診をしてください。」
- e 「抗菌薬を飲ませて、明日もまた受診してください。」

42 26歳初産婦。妊娠初期の経過には特記すべきことなく、妊娠29週より軽度の腹部膨満感を訴えていた。妊娠30週の妊婦健康診査で胎児の異常を指摘された。意識は清明。身長155 cm、体重58 kg。体温36.0℃。脈拍80/分、整。血圧98/64 mmHg。下腿に浮腫を認める。子宮底長32 cm。腹部膨満感は徐々に悪化し、妊娠31週で軽度の呼吸困難を訴えるようになった。腹部超音波検査にてAFI 31.6 cm (図1)。子宮底長38 cm。胎児心拍数に異常を認めない。腹部超音波での胎児腹部の水平断面画像(図2)を示す。

治療法はどれか。

- a 利尿薬投与
- b 分娩誘発
- c 羊水除去
- d 胎児手術
- e 緊急帝王切開



図1



図2

- 43 28歳の男性会社員。半年前から「歩いているときに通りすがりの人につかって、相手にケガをさせていないか」ということが心配になるようになった。徐々にその心配が強くなり、一度家に帰ってからまた帰り道を見に行くようになった。自分でも「いちいち見に行かなくてもきつと大丈夫だ」と思いながらも確認しないと落ち着かなくなったため、精神科受診となった。

この症例に認められる症状はどれか。

- a 対人恐怖
- b 関係妄想
- c 強迫思考
- d 罪業妄想
- e パニック発作

- 44 研修医がHBs抗原陽性患者の採血に使用した注射針を誤って自分の指に刺した。

この研修医への抗HBsヒト免疫グロブリンとHBワクチンの投与が不要である条件はどれか。

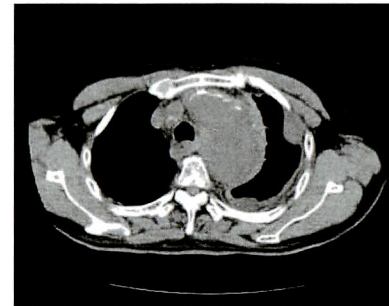
2つ選べ。

- a 患者のALT値が正常
- b 患者のHBe抗原が陰性
- c 患者のHBe抗体が陽性
- d 医師のHBs抗原が陽性
- e 医師のHBs抗体が陽性

- 45 82歳の男性。10年前より高血圧にて薬物治療中であったが、薬を飲み忘れることが多かった。起床後、布団を上げようとした時に胸痛を訴えてその場に倒れこんだ。家族の呼びかけに反応なく、救急車で直ちに搬送された。来院時喀血あり、呼吸数28/分。脈拍数は120/分、整。血圧は触診で52/F mmHg。経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO_2) は測定不可能であった。緊急CT検査を示す(単純CT: ①、②。造影CT: ③、④)。

この患者に予想される検査所見はどれか。2つ選べ。

- a 下肢造影CT検査 ————— 深部静脈血栓
- b 心電図 ————— S I Q III T III所見
- c 胸部エックス線写真 ————— 肺野血管陰影増強
- d 血液学検査 ————— D-ダイマーの上昇
- e 動脈血ガス分析 ————— 代謝性アシドーシス



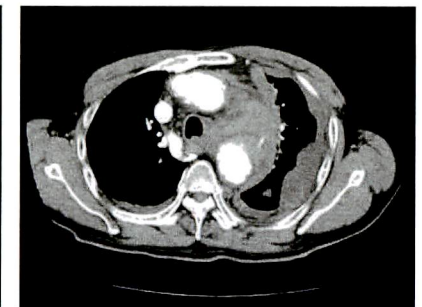
単純CT①



単純CT②



造影CT③



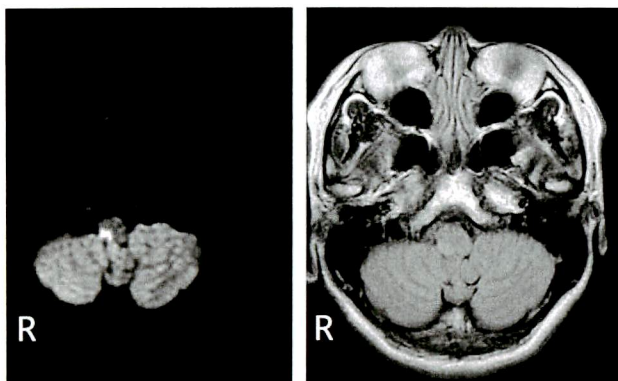
造影CT④

- 46 70歳の女性。糖尿病の既往があり、経口血糖降下薬を服用していた。

本日起床時から飲水時にむせるようになり、声がかすれ、ふらつき、右顔面と左上下肢の感覚が鈍いことを自覚したため同日外来を受診した。来院時、右Horner症候群と右顔面および左上下肢、左体幹部の温痛覚障害、右上下肢の失調症状を認め、立位を保持させると右へ身体が傾き、歩行は困難であった。来院時の頭部MRIを図に示す。

本症例に必要な性の低い職種はどれか。

- a 理学療法士
- b 作業療法士
- c 言語聴覚士
- d 義肢装具士
- e 管理栄養士



頭部MRI

- 47 18歳の女子。自転車走行中に乗用車と衝突し転倒。顔面外傷を認め搬入された。意識は清明。呼吸数22/分。脈拍86/分、整。血圧124/74 mmHg。顔面右側の耳前部から口角部にかけて12 cmの皮下脂肪が露出する創を認めた。

損傷の可能性が低いのはどれか。

- a 涙小管
- b 耳下腺
- c 耳下腺管
- d 顔面神経
- e 大頬骨筋

- 48 72歳の女性。高熱を主訴に来院した。2日前より全身倦怠感を自覚していた。昨晚から悪寒・戦慄と38.6℃の発熱および筋肉痛を訴え、食事を摂取できなくなった。介護老人保健施設のデイケアに通っており、同様の症状を呈する者が周囲にいる。意識は清明。脈拍94/分、整。血圧124/78 mmHg。呼吸音に異常はない。鼻腔粘膜インフルエンザウイルス迅速抗原検査でA型陽性であった。

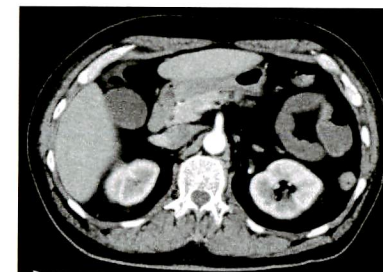
この患者への対応として適切なのはどれか。

- a 入院隔離
- b オセルタミビル投与
- c ガンシクロビル点滴静注
- d ジクロフェナック肛門内挿入
- e インフルエンザワクチン接種

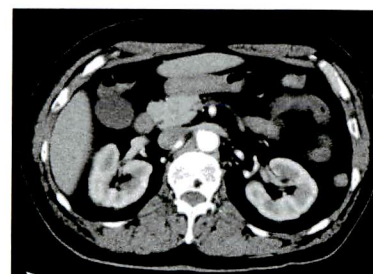
- 49 69歳の男性。上腹部の持続痛を主訴に来院した。2年前より高血圧と心房細動にて通院中であった。12時間前に突然の腹痛が出現し、徐々に増悪している。臍周囲を中心に圧痛とBlumberg徴候を認めた。血液所見：白血球数27,700、赤血球数408万、Hb13.6万、血小板数21.2万、血液生化学所見：総蛋白7.2 g/dl、アルブミン3.9 g/dl、総ビリルビン1.0 mg/dl、AST26単位、ALT13単位、LDH283単位、アミラーゼ103単位、CPK128単位、腹部造影CT(①、②、③)を示す。

診断はどれか。

- a 急性膵炎
- b 腸重積症
- c 腸管軸捻転症
- d 腹部大動脈破裂
- e 上腸間膜動脈血栓症



腹部造影CT①



腹部造影CT②



腹部造影CT③

50 25歳の初妊婦。妊娠13週。夫はいとこにあたり、近親婚における遺伝的な病気の発症を心配し、遺伝カウンセリングを希望して来院した。既往歴に特記すべきことはない。初経は12歳で、月経周期は整。喫煙歴と飲酒歴はない。身長160 cm、体重55 kg。体温36.4℃。脈拍80/分、整。血圧110/76 mmHg。

医師の態度として正しいのはどれか。

- a 染色体検査を勧める。
- b 中絶を勧める。
- c 心配はないと答える。
- d 児が遺伝的疾患を持つ確率は非近親婚と変わらないと答える。
- e 家族歴を詳しく聞く。

51 34歳の2回経産婦。妊娠37週時に陣痛発来のため来院した。入院後、陣痛は次第に増強して、8時間後に3,120 gの女児を経膣分娩した。分娩経過は順調であった。児娩出後15分を経過したが胎盤が娩出されない。子宮底は臍上3 cmで、硬さは軟である。腔内に胎盤を触知しない。少量の性器出血が持続している。

まず行うのはどれか。

- a 臍帯牽引
- b 胎盤用手剥離
- c 開腹手術
- d 子宮底輪状マッサージ
- e エルゴメトリン（麦角アルカロイド）投与

52 35歳の男性A。国民健康保険に加入している。最初にエイズ検査を受けるために、保健所を訪問した。次に、特に症状はないが、人間ドックにて大腸の内視鏡検査を受けた。その後、男性Aは、会社員の女性Dと結婚し、長男Eが生まれた。長男Eは、在胎29週2日で生まれ極小未熟児であった。長男Eが成長し、肢体不自由であると診断され補装具を使用することになった。

正しいのはどれか。

- a 男性Aが所持していた国民健康保険証は、厚生労働省が発行したものである。
- b 男性Aが受けたエイズ検査費用は、国民健康保険の一部負担金を男性Aが保健所に支払う。
- c 男性Aが受けた内視鏡検査費用は、保険の給付対象である。
- d 長男Eの出産費用は、保険の給付対象外である。
- e 長男Eが使用する補装具の購入費用は市町村から9割が支給される。

53 75歳の男性。自宅で鮮紅色の多量の吐血をきたし、救急車で搬送され来院した。意識は不穏状態である。身長168 cm、体重70 kg。脈拍115 /分、整。血圧78/40 mmHg。皮膚は蒼白で冷たい。血液所見：赤血球222万、Hb 6.5 g/dl、Ht 23%、白血球8,400、血小板11.5万、PT 11.4秒（基準対照11.3）、APTT 32.4秒（基準対照32.2）、総蛋白6.8 g/dl、アルブミン4.1 g/dl。

この患者に適切な輸血はどれか。

- a 自己血
- b 濃厚血小板
- c 赤血球濃厚液
- d 新鮮凍結血漿
- e 近親者からの新鮮血

54 73歳の男性。左膝痛を主訴に来院した。2か月前から左膝痛が出現し、正座ができなくなった。リハビリテーションで誤っているのはどれか。

- a 長距離歩行訓練
- b 膝関節可動域訓練
- c 自転車エルゴメータ運動
- d 座位での大腿四頭筋訓練
- e 仰臥位での下肢挙上訓練

55 66歳の男性。仕事を退職後、趣味で半年前から家庭菜園を行っている。2日前より舌のもつれを自覚し、喉の違和感を認めていた。前日には口が開けにくくなったため近医を受診したが、異常なしと言われ帰宅した。しかしその日の夕方には口が開けられず食事が十分にできない状態となった。当日朝に全身性けいれんを発症したため救急搬送された。来院時、意識は保たれているが、体の痛みと四肢体幹の強直を認めた。

考えられる疾患はどれか。

- a 水中毒
- b 破傷風
- c 脳血栓症
- d 顎関節炎
- e 甲状腺中毒症

- 56 22歳の女性。呼吸苦を訴えて来院。就職活動中であり、面接に向かう途中であった。以前にも同様の呼吸苦を生じたことがあるという。来院時の動脈血液ガスデータを以下に示す。

pH : 7.504
 PaO_2 : 120 mmHg
 PaCO_2 : 25 mmHg
 HCO_3^- : 19 mEq/l
 Na^+ : 136 mEq/l
 K^+ : 4.2 mEq/l
 Cl^- : 98 mEq/l

誤っているのはどれか。

- a 酸素投与が必要である。
- b 頻呼吸を呈している。
- c 鎮静薬投与で症状軽快が見られることが多い。
- d 呼吸性アルカローシスを呈している。
- e 動悸、手足の痺れをともなうことが多い。

- 57 14歳の女子。中学校に入学したときから仲間はずれにされていた。最近ふさぎ込みがちになり、体重も急激に減少した。あるとき担任に「生きているのがつらい」と打ち明けた。

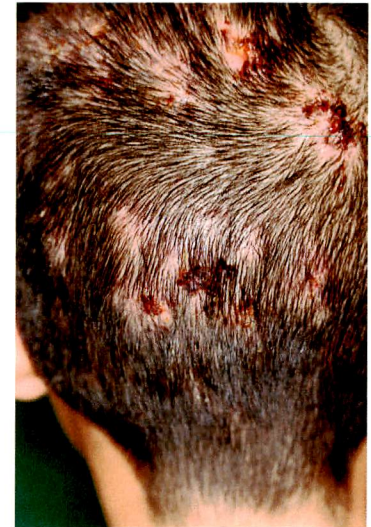
担任が取るべき行動はどれか。

- a 校長に相談
- b 校医に相談
- c 小児科受診を勧める
- d 精神科受診を勧める
- e スクールカウンセラーに相談

- 58 10歳の男児。頭部の皮疹を主訴として来院した。頭部の写真を示す。

この疾患について正しいのはどれか。3つ選べ。

- a ヒトからの感染症である。
- b 病変部の毛髪は容易に抜ける。
- c 苛性カリ直接検鏡法が有用である。
- d 脱毛部の毛は再生することはない。
- e 治療は抗真菌薬が有効である。



頭部の写真

- 59 19歳の男性。普段より血圧が高く、よく頭痛を訴えていた。仕事に追われていたが、朝9時半頃職場で、パソコンに向かって書類を作成中、激しい頭痛を自覚した。その後、意識を失ったため、救急車で近くのA救急病院に搬送された。頭部CT検査により、くも膜下出血と診断され、近くのB医科大学病院へ再搬送の後、頭部手術を受けたが状態が悪化し、10日後に臨床的な脳死状態と診断された。

この患者の臓器提供について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 未成年であるので臓器提供はできない。
- b 家族の承諾が無ければ臓器提供はできない。
- c 臓器提供に関する承諾はA救急病院の主治医が行う。
- d 搬送先B医科大学病院での法的脳死判定が可能である。
- e 意思表示カードが無ければ脳死下臓器提供はできない。

- 60 暗室で行う眼科検査の写真を示す。
この検査で得られる情報はどれか。

a 眼軸長
b 角膜内皮細胞数
c 角膜知覚
d 網膜電図
e 視覚誘発電位



眼科検査の写真

- 61 68歳の女性。仕事先から帰宅した長女が台所でうつ伏せに倒れている母親を発見した。体位を仰向けに転換し、意識を確認したが反応がみられないため、ただちに救急隊を要請した。しかし硬直が出現しているため病院へは搬送されなかった。発見から4時間後に行われた検案所見は、直腸温 26℃（外気温 18℃）、死斑は前面と背面の両側に発現している。角膜は微混濁で瞳孔を透見できる。死体硬直は全身にみられるが四肢末梢側では若干弱い。

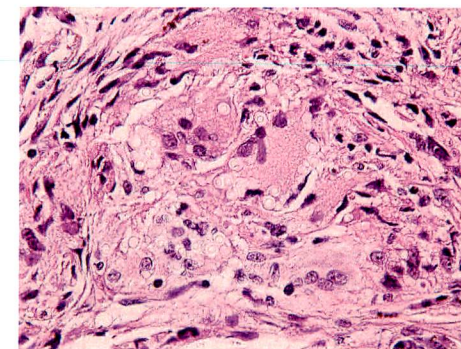
死亡推定時刻は検案のおよそ何時間前か。

a 6時間
b 9時間
c 12時間
d 18時間
e 24時間

- 62 63歳の女性。1年前に胃癌で胃全摘術と術後化学療法を受けた。1か月前に胸部エックス線写真で左肺上葉結節影を指摘され、胸腔鏡下切除された肺病変部のH.E.染色標本を示す。

診断に有用な特殊染色法はどれか。2つ選べ。

a PAS
b Sudan III
c Congo-Red
d Alcian-Blue
e Ziehl-Neelsen



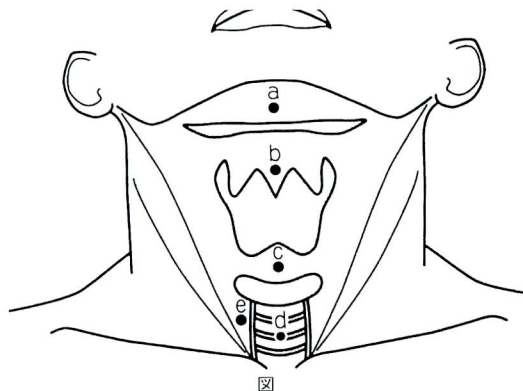
H.E. 染色標本

- 63 65歳の男性。1か月前から労作時息切れを自覚して受診した。1年前に胃全摘術の既往がある。血液所見：赤血球 480万、Hb 8.5g/dl、Ht 33%、白血球 5,600、血小板 43万。便潜血陽性。

最も考えられるのはどれか。

a サラセミア
b 鉄欠乏性貧血
c 再生不良性貧血
d 巨赤芽球性貧血
e 骨髓異形成症候群

- 64 55歳の男性。166cm、60kg。喉頭蓋のう腫に対して腫瘍切除術が予定された。静脈麻酔（プロポフォール 120 mg、フェンタニル 100 μ g）による急速導入後、マスク換気不能－気管挿管不能となり、酸素飽和度が50%を下回り、脈拍も40回/分以下の徐脈になった。
- 外科的緊急気道確保の部位として正しいのはどれか。図より選べ。



- 65 24歳の男性。2日前に交通事故による外傷のため搬入された。左側大腿骨の骨折と広範な筋肉の挫滅を認めた。今朝から尿量が減少しフロセミド 100 mgを静注したが、尿量の増加は認めなかった。仰臥位での息苦しさを伴う。意識は清明。体温 37.5℃。呼吸数 23/分。脈拍 98/分。血圧 156/87 mmHg。胸部両側下部にcoarse cracklesを聴取する。血液所見：赤血球 245万、Hb 6.8 g/dl、Ht 21%。血液生化学所見：総蛋白 6.6 g/dl、アルブミン 2.6 g/dl、尿素窒素 98 mg/dl、クレアチニン 6.7 mg/dl、Na 134 mEq/l、K 6.8 mEq/l、Cl 101 mEq/l、Ca 8.3 mg/dl、P 5.7 mg/dl。動脈血ガス分析（自発呼吸 room air）：pH 7.38、PaO₂ 94 Torr、PaCO₂ 33Torr、HCO₃⁻ 19 mEq/l。

直ちに行う処置はどれか。

- a 血液透析
- b 保存血輸血
- c アルブミン静注
- d 炭酸カルシウム投与
- e 重炭酸ナトリウム投与

次の文を読み、66～68の問いに答えよ。

34歳の0経妊0経産婦。合併症はなく、順調に経過していた。妊娠24週の時に羊水過多を認め、超音波検査を行なったところ、胎児の腹部に図に示す所見を認めた。



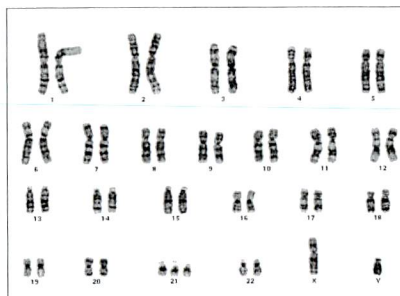
図

- 66 正しいのはどれか。
- a 女兒に多い。
 - b 胎児治療の適応である。
 - c 羊水過多とは無関係である。
 - d 出生後、外科的治療が必要である。
 - e 他の形態異常を合併する可能性は低い。

67 妊娠28週で羊水除去を施行し、羊水の中の胎児細胞で染色体分析をおこなったところ、図に示す所見であった。

誤っているのはどれか。2つ選べ。

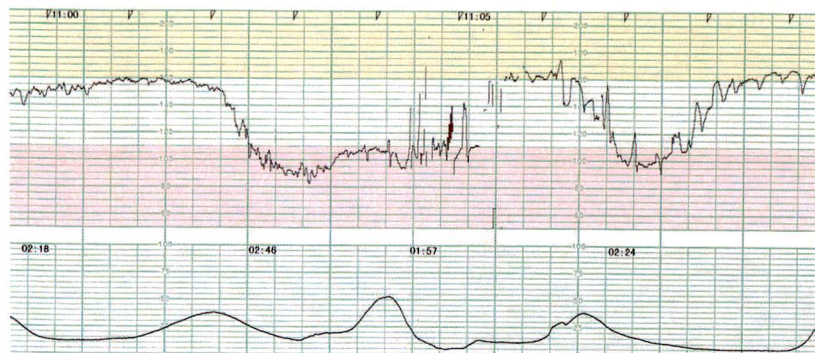
- a 成人に達する例は稀である。
- b 母親の出産時年齢に関係する。
- c 心疾患を合併することがある。
- d ほとんどが子宮内胎児発育遅延である。
- e モザイク型では一般に症状が軽度である。



図

68 37週2日に陣痛発来し、入院した。子宮口は4cm開大し、未破水である。推定胎児体重は2,350gで、AFI:25cm、母体血圧は正常であった。胎児心拍数陣痛図では、図に示す所見が持続している。対応で、正しいのはどれか。

- a 人工破膜を行なう。
- b 帝王切開の準備をする。
- c 胎児監視を続けながら経過観察。
- d オキシトシンの持続点滴を開始する。
- e 分娩時、小児科医の立会いは必要ない。



図

次の文を読み、69～71の問いに答えよ。

66歳の男性。呼吸困難を主訴に来院した。

現病歴：6年前から間欠的に咳嗽を認めていた。3年前から自宅前の緩やかな坂道を上るときに呼吸困難を自覚するようになった。半年前から平坦な道でも長時間歩くと呼吸困難のため立ち止まるようになったため来院した。

既往歴・家族歴：特記すべきことはない。

生活歴：40本/日、48年間の喫煙歴がある。飲酒は機会飲酒。

現症：意識清明。身長166cm、体重56kg。体温36.2℃。呼吸数16/分。脈拍90/分、整。血圧110/70mmHg。空気吸入下SpO₂94%。心音純。ばち指を認める。

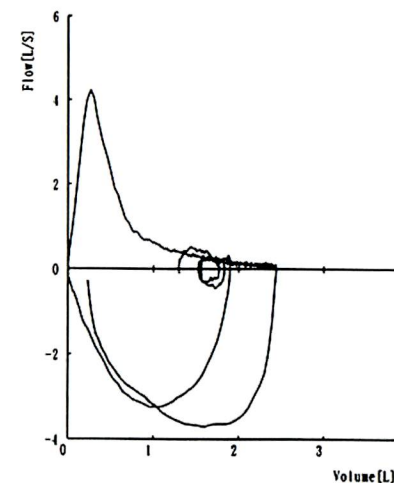
検査所見：動脈血ガス分析(空気吸入下)：pH7.41、PaCO₂38Torr、PaO₂66Torr、HCO₃⁻24mEq/l。

血液学所見：赤血球480万、Hb15.2g/dl、白血球6,200、血小板16.2万。血液生化学

所見：AST18IU/l、ALT12IU/l、LDH210IU/l(基準119～229)、UN12mg/dl、

Cr0.6mg/dl、血糖100mg/dl、Na135mEq/l、K4.1mEq/l、Cl102mEq/l。CRP0.2mg/dl。KL-6323U/l(基準500以下)。

フローボリューム曲線を示す。



フローボリューム曲線

69 身体所見として正しいのはどれか。2つ選べ。

- a fine crackles
- b Hoover徴候
- c 吸気延長
- d 打診上鼓音
- e 肺肝境界上昇

70 この疾患の病期分類に使用されるのはどれか。

- a PEF
- b FEV_1/FVC
- c %DLco
- d % FEV_1
- e %VC

71 治療として適切でないのはどれか。

- a 在宅酸素療法
- b 肺炎球菌ワクチン接種
- c 長時間作用型抗コリン薬
- d 呼吸リハビリテーション
- e ニコチン性アセチルコリン受容体部分作動薬

次の文を読み、72～74の問いに答えよ。

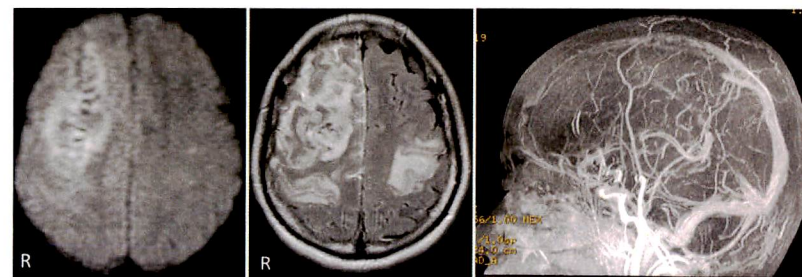
32歳の女性。右利き。痙攣、意識障害が出現したため、救急車で搬送され受診した。

現病歴：10日前に第1子を出産したが、子宮頸管裂傷を生じ出血量が多かった。分娩後の疼痛のため、食欲がなく水分も十分に摂取できなかった。分娩4日目から頭重感が出現し、分娩9日目の昼頃から右手の脱力が出現。夕方には右下肢の脱力も出現したため近医に入院した。入院翌日には左手の脱力も出現し、その後全身性けいれん発作が出現したため当院へ搬送された。

既往歴、生活歴、家族歴：特記事項はない。

現 症：身長 165 cm、体重 58 kg。体温 37.2℃。脈拍 90/分、整。血圧 120/80 mmHg。意識は傾眠、失語、病態失認、半側視空間失認なし。右への共同偏倚を認めるが視野障害はない。瞳孔は左右 3 mm、対光反射は両側迅速。眼底所見異常なし。額のしわ寄せは可能だが、左鼻唇溝は浅く、左眼輪筋の筋力は低下している。舌は左へ偏倚するが萎縮はない。四肢の筋トーンスは低下し、両上肢は挙上保持困難で、右下肢は膝上可能だが左下肢は不能。感覚系は異常なし。深部腱反射は左で亢進し、両側Babinski反射陽性。項部硬直、Kernig徴候陰性。

血液所見：赤血球 410 万、Hb 10.9 g/dl、Ht 33.6 %、白血球 11,000 μ l、血小板 27 万、血液生化学所見：血糖 135 mg/dl、総蛋白 5.8 g/dl、アルブミン 3.1 g/dl、尿素窒素 5.5 mg/dl、クレアチニン 0.6 mg/dl、総ビリルビン 0.3 mg/dl、AST 30 IU/l、ALT 20 IU/l、LDH 220 IU/l、CK 95 IU/l、プロトロンビン時間 11.3 秒(基準：10.5～13.5)、活性化部分トロンボプラスチン時間 25.5 秒(基準：25.0～38.0)、フィブリノーゲン 346 mg/dl(基準：149～341)、FDP 14.4 μ g/ml(基準：5.0 未満)、Dダイマー 7.82 μ g/ml(基準：1.0 未満)入院時の頭部MRI拡散強調画像、FLAIR画像およびMRV(MR静脈撮影)を示す。



拡散強調画像

FLAIR画像

MRV(MR静脈撮影)

72 本症例で認める神経学的異常所見を選べ。

- a 左末梢性顔面神経麻痺
- b 左外転神経麻痺
- c 右舌下神経麻痺
- d 髄膜刺激徴候
- e 錐体路徴候

73 考えられる診断はどれか。

- a 動静脈奇形
- b 転移性脳腫瘍
- c 心原性脳塞栓症
- d 脳静脈洞血栓症
- e アミロイドアンギオパシー

74 適切な治療はどれか。2つ選べ。

- a 組織型プラスミノゲンアクチベータ
- b メチルプレドニゾロン
- c ウロキナーゼ
- d フェニトイン
- e ヘパリン